

第2次計画			第3次計画 目標項目(案)	備考
①	食育に関心のある人の増加	継続	食育に関心のある人の増加	1次計画時からの総括指標であり、食育活動の基本となる指標であることから継続とする。
②	食育活動を実践している人の増加	継続	食育活動を実践している人の増加	2次計画時からの総括指標であり、食育活動の基本となる指標であることから継続とする。
③	親子で取り組める食育活動を行っている 保育所(園)・幼稚園の増加	変更	調理・菜園活動など、体験型食育活動を行っている 保育所(園)・幼稚園・認定こども園の増加	・「親子で取り組める食育活動」にはある程度限界があり、現在実施できていない園は環境的に実施困難なため今後の伸びしろが期待できない。 ・幼児と保護者、それぞれに対しての食育はほとんどの園で実施できている。 ⇒保育所や幼稚園では、調理や菜園活動など、1人ではなく、友だちと共有し共感しながらできる食育活動が大切である。そうすることで苦手だったもの、食べず嫌いだったものが食べられたり、食べてみようという自発的な感情がわいてくる。また、園児だけではなく、保護者に対する食育も大切であるため、2つの目標に変更。
			保護者に対して食育の取り組みを行っている 保育所(園)・幼稚園・認定こども園の増加	
④-1	欠食のある幼児の減少	変更 継続	朝食を欠食している幼児の減少 欠食のある幼児の減少	現状として、朝食を欠食し、朝昼兼用としているケースが多いことが予想されたことから、前回は「朝食を欠食している幼児の減少」を案としていた。 ⇒現時点で朝食を欠食している幼児を明確に把握できていないこと、また欠食しているのが朝食に限らないこと等から、現行の目標と同様「欠食のある幼児の減少」をそのまま継続とする。
④-2	朝食を欠食している小中学生・高校生の減少	継続	朝食を欠食している小中学生・高校生の減少	取り組みや対象へのアプローチ方法については引き続き検討が必要。
④-3	朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少	継続	朝食を欠食している大学生・専門学校生の減少	
⑤	1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加 (生活習慣病予防)	継続	1日のうちに2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(生活習慣病予防)	これまでは1日のうち1食以上としていたが、2食以上に変更。
⑥	歯科検診を受けている人の増加	変更	何でもよくかんで食べることができる市民の増加 ゆっくりよく噛んで食べる人の増加	国の指標に合わせるが、国の「ゆっくりよく噛んで食べる国民」は主観性が強い、「何でもよくかんで食べることができる市民」に変更。(意識について聞くのではなく、噛める機能について聞く。) ⇒噛める機能については、枚方市歯科口腔保健計画において推進するとし、食育推進計画においては、噛み方や食べる速さに着目し、肥満につながる早食いなど、生活習慣病予防、健康寿命の延伸という観点から、「ゆっくりよく噛んで食べる市民の増加」とする。
⑦	食育に関する基礎知識を有する人材の増加	継続	食育に関する基礎知識を有する人の増加	食育Q&Aの大人用を実施する保健センターの講座に限られている。冊子より、A4(表に問題・裏に解答)1枚の方が他のイベント等で気軽に配りやすいため、食育Q&Aの見直しを行い、現行のものより簡素化したものを配付し、その人数を数値にする。
⑧	地域人材を活用した食育活動を行っている小中学校の増加	継続	地域人材等を活用した食育活動を行っている小中学校の増加	現在食育活動を行っていない学校は、地域性や環境から今後も実施することは難しいため、数値の伸び悩みが課題。⇒ネットワークによる食育の推進を基本方針に掲げており、地域人材を活用した食育は大切であることから、現行どおりの指標を継続とする。なお、地域人材とは農家だけでなく、食品関連事業者や流通産業等、また、枚方市以外の企業等も含むことから地域人材等とする。
⑨	ボランティアが行う食に関する教室への参加者の増加	変更	食育推進に関わるボランティアの養成人数の増加	2次計画では、食生活改善協議会と健康リーダーが行う教室への参加者数を実績としていた。今後、参加者の増加は難しく、また、この2団体のみの実績で良いのか？⇒教室の参加者数ではなく、国の指標のように、ボランティアとして活動する人の増加を目標とする。保健センターが実施する「健康づくりボランティア講座」と「いきいきサポーター養成講座」の修了者数を数値化する。(H.28年度実績15名+51名=66名)
⑩	1日のうちに主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加 (日本型食生活の継承)	再掲	1日のうちに2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている人の増加(日本型食生活の継承)	これまでは1日のうち1食以上としていたが、2食以上に変更。
⑪	学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加	継続	小学校給食での枚方産農産物と府内産農産物の使用率の増加	
⑫	地元農産物直販会の開催数の拡大	継続	地元農産物直販会の開催数の拡大	直販会(現在10ヶ所)の開催数の拡大には限界があるため、直販会以外に、品評会(年2回)・年末直販会(年1回)・エコ農産物(年2回)・マルシェひらかた(年1回)・農業まつり(年1回)の実績を新たに加えることとする。なお、開催数がほぼ決まっているため、現状維持の目標となる。
⑬	食べ残しや手つかず食品を処分することが多い人の減少	変更	食品ロス削減のために何らかの行動をしている人の増加	国の指標に合わせる。
⑭	食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加	継続	食の安全性に関する正しい知識を持ち、実践している人の増加	
		新規	1日のうちに2食以上、主食・主菜・副菜をそろえた食事をしている若い世代の増加(20歳代・30歳代)	基本方針「若い世代を中心とした食育の推進」に合わせて、20歳代・30歳代に特化した指標を別で設定。
			1日のうちで家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる共食の回数 1日のうち2回以上、家族・友人・職場・地域等、誰かと一緒に食べる人の増加	検討事項：市としてどのような取組み・啓発ができるか？ ⇒まずは、広報やホームページ、また、保健センター主催の講座や保健指導等で「共食」についての周知・啓発を図り、共食を心がける人を増やす。 さらに、調理実習は、調理後の食事を伴い、「共食」の機会の提供につながることから、調理実習の実施回数の増加を目指す。
			中学校給食の喫食率の増加	学校給食課における平成31年度目標：50%
			生活習慣病の予防や改善のために、ふだんから適正体重の維持や減塩等に気をつけた食生活を実践する人の増加	国の指標に合わせる。
			農業体験を経験した人の増加	ふれあいツアーの参加者数を実績とする。